

# 昭和58年度 和歌山県名匠

## 【漆下地師】

うるし した じ し  
い とう しょう ぞう  
伊 東 昌 造

【現住所】 海南市

【生 年】 明治35年

### 業績及び経歴

徳川時代より四代続く海南市黒江の漆器製造家に生まれ少年期より父の手ほどきを受ける。大正6年町立黒江漆器学校で漆器の基礎を学び、その後家業の漆器製造業を継ぎ戦後は漆下地一筋に歩む。

「漆下地は塗りや加飾かしきの基礎となるもので、下地の良し悪しで製品の良否が決まる。」と氏は語る。目立たないが伝統漆器になくてはならない重要な工程である。

氏の漆下地は地元業界でも高く評価され、伝統的工芸品産業振興協会から昭和57年、伝統工芸士と認定された。

次第に後継者が少なくなる伝統産業を憂い、後継者育成に特に尽力し、昭和55年よりはじまった伝統漆器技術研修会の漆下地部門の講師を本年まで連続務めるなど紀州伝統漆器業界発展のために大きく貢献している。